



香美史談会会長
高田俊祐さん

今回の特集は資料『山田競馬場』（著者：高田俊祐さん）を元に、編集した記事です。より詳しい内容を知りたく、インタビューしました。



なぜ山田町に競馬場？

当時、山田町は馬産地であり、農家の方たちが、農耕や荷物の運搬などの目的で馬を飼っており、町民にとって馬は身近な存在でした。

また、鉄道高知線（高知～山田間）が大正14年12月5日に開通したことにより、山田駅は高知県の東の玄関となっていました。このような環境から昭和2年に愛馬家ら（株式会社愛馬協会）が中心となって山田町に競馬場が開設されました。

現在の高知競馬場の原点は山田競馬場！？

昭和8年に山田競馬場が長浜競馬場（高知市長浜）に移転しました（詳細は6～7P記載）。しかし、長浜競馬場はアクセスに問題があったため、戦後になって、廃止されていた旧高知棧橋競馬場（高知市棧橋）に移転。その後、昭和60年に同競馬場は廃止され、現在の高知競馬場（高知市長浜宮田）に移設しました。

このことから、現在の高知競馬場の原点は山田競馬場であると言えます。

大人達だけでなく子ども達も！

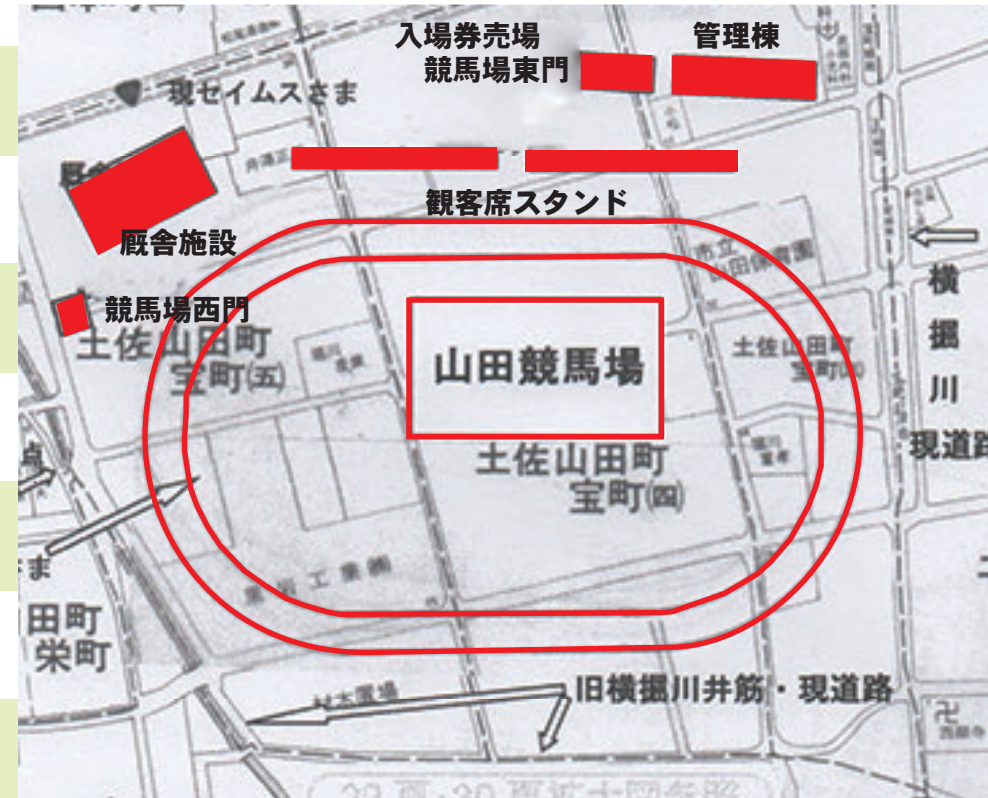
競馬が開催された後、子ども達は場内に散乱しているハズレ券を拾っては、メンコ（面子）として遊んでいたようです。

当時の馬券の紙質は、メンコの代わりになるほど堅く、サイズは当時のハガキの半分余りだったようです。

しゅばしょ 四国種馬所の設置

昭和10年、片地村神母木から船谷・宮ノ口にかけて広大な四国種馬所が設置されました。種馬所の誘致は、四国四県の熾烈な誘致合戦が繰り広げられ、特に徳島県とは激しく競い合いましたが、JR（旧国鉄）土讃本線が開通したことが大きな決め手となり、馬事行政の拠点となりました。山田町周辺が馬産地としての土壌があったこと、山田競馬場の開催実績があったことも、誘致合戦を制した要因と考えられています。

戦後、四国種馬所は種畜牧場から高知県林業試験場となり、その後、同試験場の機能は現在の高知県森林技術センターへ、跡地は高知工科大学へと形を変えています。種馬所・森林技術センターの用地確保には地元の方たちの苦渋の決断があり、土地が提供されていたことを忘れてはなりません。



▲作成者：高田俊祐さん(香美史談会)

3万人が熱く活気にあふれた競馬場

皆さんはここ香美市に競馬場があったことはご存知でしょうか。競馬場があったの？！と、驚かれた方もたくさんいらっしゃると思います。

今から約90年前、昭和2年から昭和8年まで山田町西町（現在の土佐山田町宝町3～5丁目）に山田競馬場はあり、高知競馬場の原点となった競馬場とも考えられています。

競馬が開催される日には、約3万人の観衆が押し寄せて熱狂し、馬券は6万2000円（現在の価格にして約3943万円）の売り上げを出した、山田競馬場はそんな活気にあふれた競馬場でした。

今回は、そんな夢とロマンの競馬場『山田競馬場』について、ご紹介します。

最後に

香美市には、さまざまな文化や歴史があります。どの文化や歴史を振り返っても、非常に魅力的であり、まちの発展に大きく関係しています。

山田競馬場の歴史を振り返ってみても、競馬の開催や四国種馬所の誘致で輝いた時代があったのです。それは香美市民が持つ、エネルギーとスピリット（心意気・魂）にほかなりません。

このエネルギーなパワーは現在の香美市民にも受け継がれているはず。1日3万人を動員した山田競馬場のように、香美市がさらに輝くことを願っています。

